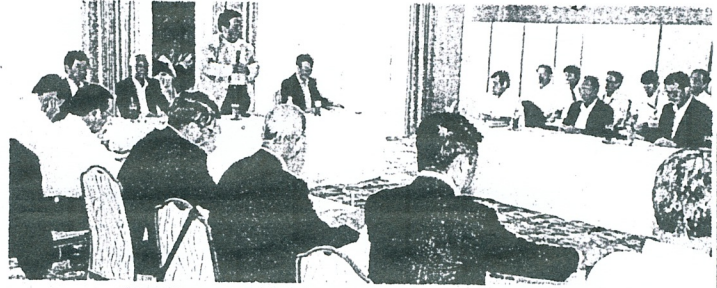


# 民主との対決強調 自民県連・国会議員

## 首長と意見交換



菅政権への不満を首長から吸い上げる自民党の県選出国会議員ら(奥)=30日、松山市

が出席。市長会と町村会に分かれ、非公開で意見交換した。

市長会長の三好幹二、西予市長は「分権という大きな流れの中、国は地方の声を無視できなくなっている」と主張。合併特例債の適用期間延長などを求める声が上がった。

「脱原発」について自民は産業の空洞化を懸念。安全対策を地元住民に説明するよう政府・与党に働き掛ける」と理解を求めた。

町村会長の白石勝也、松前町長は、東日本大震災の復興財源に関し「西日本への交付税などを削って充てるのではなく、別枠で」と要望。「いつ選挙があってもいい体制で地域の声を聞き、国政に反映を」と付言した。

県連会長の村上誠一郎、県議員(2区)らは「国政野党だが、蓄積している経験や人脈を生かし、地域のために応えたい」と述べ、今後半年2回程度、定例化したい考え。

意見交換会は当初3月の予定だったが、東日本大震災の発生を受け延期していた。

(西山秀和)

自民党県連は30日、

松山市道後地区のにぎたつ会館で、県内市町長との国政に関する意見交換会を開催。首長から「政治空白」の打開に向け、民主党などとの大連立を求め、自民サイドは「子ども手当などバラマキを撤回しないと筋が通らない」と対決姿勢を強調した。

菅政権への不満を吸い上げる自民党の県選出国会議員ら(奥)=30日、松山市

菅政権への不満を吸い上げる自民党の県選出国会議員ら(奥)=30日、松山市